

令和4年度 自己評価計画

石川県立いしかわ特別支援学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 |
|-----------------------------|--|--------------------|--|--|---|--------------------------------|------------------------|
| 1 授業実践力の向上 | ① 児童生徒の育成すべき資質・能力を育むために、授業づくりのポイントを明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組む。 | 研究研修課 全学部 | 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒の学習意欲を高め、昨年度までの取り組みを土台に主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを一層充実させる必要がある。 | 【成果指標】(教員) 単元や題材を見通して主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりのポイントを押さえ、授業実践している。 | 担当する授業において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの3つのポイントすべてを意識した単元構成、授業実践を行ったと回答した教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | 教員による自己評価 9月と1月 |
| | ② 児童生徒が授業の目標を達成できるように、1人1台タブレット端末を有効に活用する。 | 教務課 全学部 | GIGAスクール構想のもと、ICT機器を活用した授業が行われているが、今後は1人1台タブレット端末を有効活用し、さらなる授業改善を行う必要がある。 | 【満足度指標】(保護者) 個別または集団学習において、1人1台タブレット端末を有効活用し、授業改善を行っている。 | 授業参観や学級通信などで、児童生徒がタブレット端末を有効活用している様子を知り、授業に満足している保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | 保護者によるアンケート調査 9月と1月 |
| 2 小学部から高等部までのつながりのある教育活動の推進 | ① 小学部から高等部、社会へのつながりを意識した教育活動を計画し、実践する。 | 各課 全学部 | 現在は各学部ごとに分かれて、教育活動を行っており、今後は各学部間を意識し、連携した教育活動を展開する必要がある。 | 【成果指標】(教員) 他学部参観や全校縦割りの教科部会で、他学部について知り、つながり意識した教育活動を計画し、実践している。 | 小学部から高等部、社会へのつながり意識した教育活動を計画し、授業を行った教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | 教員による自己評価 9月と1月 |
| | ② 本校のキャリア教育全体計画に示したキャリア発達の視点を取り入れた授業実践を行う。 | キャリア教育推進委員会 全学部 | キャリア教育全体計画を基に、4つの資質・能力を各学部の段階ごとにバランスよく育成していく取り組みが必要とされている。 | 【成果指標】(保護者) 各学部のキャリア発達の視点を取り入れた実践を行い、保護者に情報発信し理解をすすめる。 | HPや学級通信などで、各学部のキャリア発達の視点を取り入れた教育活動について、理解した保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | 保護者によるアンケート調査 9月と1月 |

| 重点目標 | | 具体的取組 | 主担当 | 現状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 |
|----------------|---|--|---------------------|---|---|---|--------------------------------|---------------------------|
| 3 インクルーシブ教育の実現 | ① | 地域の関係者と連携をとりながら、インクルーシブ教育に関する教育活動を計画し、実践を行う。 | インクルーシブ推進委員会 全学部 | 令和7年度の知的障害教育部門高等部の金沢向陽高校敷地内への移転に伴い、日常的なインクルーシブ教育の実践に向けて具体的活動を計画している。今後は、森本地区全体を含めた地域や関係機関等とも連携して、インクルーシブ教育を推進していく必要がある。 | 【成果指標】(教員) インクルーシブ教育に関する教育活動を計画し、実践を行う。 | インクルーシブ教育の理念を意識し、工夫、改善した教育活動を計画し、実践した教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | 教員による自己評価 9月と1月 |
| | ② | 本校が行ったインクルーシブ教育に関する取組をホームページ等で情報発信する。 | インクルーシブ推進委員会 全学部 | 共生社会の実現に向けて、本校のインクルーシブ教育の実践を全体的に情報発信していく必要がある。 | 【成果指標】 インクルーシブ教育に関する教育活動を実践し、積極的に情報発信していく。 | インクルーシブ教育に関する教育活動の情報発信を行った回数 A 60回以上である B 48回以上である C 36回以上である D 36回未満である 【達成目標 B 以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | インクルーシブ推進委員による調査 9月と1月 |
| 4 働き方改革の推進 | ① | ICT化による効率的な業務改善に取り組み、校務分掌等の業務内容の平準化を進める。 | 全学部 | 校務分掌及び校内業務等の見直しや改善に積極的に取り組み、ICTを積極的に活用し、自らのタイムマネジメントを意識した業務遂行により、時間外勤務時間の軽減を図る。 | 【満足度指標】(教員) 校務分掌等の更なる平準化と効率化を推進し、計画的かつ効率的な業務遂行をする。 | 自らの働き方改革に対する取り組み目標を設定し、実践した結果、平準化と効率化が図られたと感じる教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | 教員による自己評価 9月と1月 |
| | ② | 超過勤務時間45時間以内の教員が100%となることをめざし、働き方改革をすすめる。 | 各課、各学部 | 超過勤務時間60時間以上の教員が時期においては多数見られ、業務の集中化を改善する必要がある。 | 【成果指標】 超過勤務時間45時間以内をめざし、課、部の業務の平準化と効率化を推進する。 | 各課、各学部の課題に応じ、業務の平準化と効率化を工夫した課・部の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】 | 中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。 | 課、部による自己評価 9月と1月 |